

所 管 事 務 調 査 報 告

令和5年9月11日

洞爺湖町議会議長 大 西 智 様

経 済 常 任 委 員 会
委員長 石 川 邦 子

本委員会は、所管事務調査のため、次のとおり委員会を開催したので、その結果を報告します。

記

○所管事務調査

- 1 調査事項 「虻田下水道終末処理場」、「とうやクリーナップセンター」の現況について
- 2 調査日 令和5年7月18日（火）
- 3 出席委員 石川邦子委員長、大屋副委員長、千葉委員、今野委員、石川諭委員、板垣委員
- 4 説明員等 水 ingAM（株）虻田管理事務所 佐藤所長、浅利技術員 若木経済部長、上下水道課 細江課長、泰地主査
- 5 調査結果

虻田下水道終末処理場は、昭和62年10月から供用を開始し、35年を経過しており、とうやクリーナップセンターにおいても、平成7年3月から供用を開始し、28年を経過しており、長寿命化を図るため施設の更新を随時実施している。本委員会においては、施設の状況を把握するため現地の視察調査を行いました。

虻田下水道終末処理場においては、令和4年度、5年度の2か年にて設備更新（機械・電気）を実施するとし、1億5千2百万円の事業費を予定している。とうやクリーナップセンターにおいても、令和4年度、5年度の2か年にて設備更新（機械・電気）を実施、8千7百万円の事業費を予定している。全国的な物価の高騰により、資材も高騰していることから設備更新の工事費用も多額となっているが、住民の生活環境を維持して行くためには必要な施設であることから、計画的な更新整備が求められる。

公共下水道事業は、令和5年4月1日から公営企業会計へ移行し、その企業的性格を活かしながら、一層の経営効率化・健全化も図っているところであるが、現在の状況が今後も維持されるよう鋭意努めていただきたい。